【短歌】

楠瀬　兵五郎　選

紅も白も咲くサルスベリ我が庭に苗木をくれし人は遥かに　有澤　春江

シベリアの凍土に葬りし戦友の供養に巡る同行二人　山本　太幸

ぎくしゃくの隣国外交限りもなし老弱の身の思いに沈む　高野　和一

萱の中に濃き色に咲きすぼみゆく南蛮煙管思いぐさとも　小松　敏子

万葉の心を宿す猪野々路に歌あり豊かなる佇ずまいあり　明石　満子

秋昼時居眠る猫のキャッツフード残りしものを蟻運びゆく　小野寺朱実

数々の試練の中に生れし歌命の息吹き見ゆるかと思う　小原　子川

我が庭のヒイラギ南天赤く熟れ小鳥威しの小布をつるす　鍵山　春子

順追って塗り潰すのみ一人身に何の事ない国勢調査　伊藤　清子

石けんをお菓子かと云うおばあちゃんのくいしんぼうとみなみは笑う　古谷　由美

エンジンの振動が眠気さそいくる船室に夫はもう眠りたり　佐々木真里

ひと庭を囲みて子らと共に住み芋と魚を替へるよろこび　小野川惠仁

発想をさらりと言いて行動すパズル埋めゆくごときこの友　宮地　亀好

秋深む明けどきひた呼ぶ鳥一つ心あかせと臥所にしばし　坂上のぶ子

畔のバッタ先へ先へと追ひやりて百合咲く岸へ近づいてゆく　小松もとみ

黄葉を楽しみに来て愕然と橅の枯木に仰ぐツキヨダケ　林　敏子

目の先に仔虫が一つ執拗に飛びて心はみだされてゆく　佐竹　玲子

集成材吊り上げられて揺られをり建ちゆく園に木枯の吹く　都築　初代

風強き庭にさかりのホトトギス独居の我のさびしさを知る　有澤　泰子

やうやくに胸のしこりのほどけたり初明りして来し方かがよふ　山崎　貴子

夫は逝けり二十五歳の子育て最中途方に暮れき秋おぼろ月　西尾　玉喜

花群の中よりとび出す青バッタとっさに叩く八十八の手　尾立　かよ

秋祭りスパッツはいて踊るべく鏡に見れば湾曲愛し　法光院俊子

朝夕に畝作りおき種をまく秋茄子二つ三つピーマン元気　横田直加子

数々の歌集並べるその中に今は亡き人の幾冊かあり　竹村　稔美

門柱に沿いて立つ柊赤き実を豊かにつけて小鳥らを呼ぶ　山崎　緑

数々のおかずを作る妻ありて八十半ばの吾れの幸せ　小松　隆之

「こんにちは」声をかけてもしらん顔案山子に声をかける人あり　楮佐古きよ

残雪の故里恋ひて父逝きぬ東と呼ばれし廃屋ありて　森本　幸美

煮凝りをうましと言ひて家族食ぶこの何気無きことの幸せ　大石沙智子

物部川を繰り舟繰りて渡りたる頃もありけりもろもろ過ぎぬ　高橋　章

百歳の祝辞を読む母確かなり微笑む顔をそっと撫でやる　武内　弘子

エンジンが一発始動出来た日は体もかるく耕運機扱う　松中　賀代

時雨きて又時雨きて野牡丹の花の散りゆくわが庭の秋　出原　久子

立川の番所に座して話聞く幕藩の世を脳裡に浮かべ　門田　明子

こけ玉を作りに行きし寺のすみにほほえむ地蔵亡き孫に似る　林田　幸子

国民に公開すべきと保安官は大き勇気に動かされしや　古川　安子

汚れしものいまだ見ぬ眸まつすぐにわれを見つめて姫乙楽抱かるる　竹村　咲子

小雨ふり深閑とせる森大杉はどっしり根を張り千三百年　小松　禮子

本当はこの家を継ぐ子でないわたし半世紀前の戦争のせい　大石　綏子

年年にこの花が好きと愛でゐたる姑を顕たせて山茶花の白　公文　正子

銀杏の灰色並木に佇みて我が人生に励みを覚ゆ　谷内　務

あらたまの年恙なく迎えたり孫らも集いひねもす遊ぶ　公文　千恵

盛況にイベント終る会員の我を気遣う言葉やさしき　吉本　悦子

天をさす尖れる岩は屏風岩いつまで続く層雲峡の景　鍵山　みつ

犬曳くもわが足のため寒風に犬は喜び先立ちてゆく　楠瀬兵五郎

※俳句・短歌の応募は、企画課内広報委員会事務局まで。投稿方法は自由です。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】香美市役所企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）　FAX 53－5958

図書館だより

市立図書館

新年あけましておめでとうございます

昨年は『2010 国民読書年』でしたが、皆さんは、何冊本を読まれたでしょうか。昨年は、読書の大切さや楽しさを国民の皆さんに伝えようと、国をあげてさまざまな活動に取り組みました。

香美市立図書館でも、市民の皆さん一人ひとりに読書への関心をもっていただこうと、地域内の学校・各種団体などと連携し、『読み聞かせ』『おはなし会』『三館合同図書館まつり』『講演』『英語で楽しむクリスマス会』など年間を通じ、読書の楽しさを伝える活動を行ってきました。

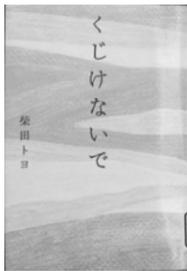
また、本館・香北分館・物部分館の蔵書（5万冊）の共有、県立図書館の移動図書館、相互貸借（県内）により少しでも多くの本を利用者の方に提供していきます。こうした、取り組みにより図書の貸し出し冊数、来館者数も徐々に増加しています。特に新刊図書は、到着と同時に順番待ちの状態が続いています。

最近、電子書籍が注目されています。便利な面もありますが、本の書籍でじっくり深く読み味わいたいですね。『国民読書年』が1年で終わらないよう、今年もさらに充実した『国民読書年』となりますように。

新着本の紹介（香北分館）

〔大人向け〕
▽治ったよ！難治性C型肝炎（尾原佳代子）▽人生の終いじたく（中村メイコ）▽バウドリーノ上・下巻（ウンベルト・エーコ）▽数えからくり女錠前師緋名（田牧大和）

〔子ども向け〕
▽足利義満（木村茂光）▽なおこ、宇宙飛行士になる（山崎直子）▽やさいむらのなかまたち冬（ひろかわさえこ）▽おはなしだいどころ（さいとうしのぶ）

おすすめの1冊

どの作品にも飾らない素朴な表現で、生きていることの喜びが溢れています。

トヨさんが歩んで来た99年間の人生の恵が語っています。そして、苦しい事がいっぱいあっても、努めて明るく暮らしてゆくトヨさんの福々しい笑顔が浮かんで来るようでした。

老いてゆく事も楽しく思えてくる、そんな暖かな安らぎを与えてくれる一冊の詩集です。「くじけないで」、トヨさんの優しい声が本の中から聞こえて来ます。

小松ひとみさん（香北町）

「くじけないで」
（作：柴田トヨ）

吉井勇記念館だより

吉井勇作品紹介　龍馬編　その⑥

吉井勇の祖父友實は、龍馬と西郷の橋渡しや、寺田屋襲撃後の護衛も務めており、龍馬と深い関係がありました。当館では『吉井家と龍馬』のコーナーを設けています。

> 龍馬の死
> 聴いてとつかは
> 馳せ付けし
> 祖父の涙
> 目に見ゆるかも

用語解説
とつかは＝とつかわ、慌て急くさま
馳せ付けし＝駆け付ける
祖父＝吉井友實
目に見ゆるかも＝目に見えるようだなあ

> 祖父が
> 友を歎きし
> それのごと
> われも龍馬を
> 泣かむとぞする

用語解説
友＝坂本龍馬
われ＝吉井勇

> 龍馬の死
> より百年は
> 過ぎにけり
> いや疾きものか
> 時の流れは

用語解説
いや＝いよいよ、ますます
疾き＝早い
か＝～だなあ

> 龍馬なほ
> 死なずと思ふ
> いまの世は
> 明治維新に
> ましてゆゆしも

まして＝なおさら、いっそう
ゆゆし＝程度がはなはだしい、不吉だ、縁起が悪い

この歌を詠んだ当時、勇の長男滋が出征しており、戦争の起きている世の中を憂えて詠んだ一首といえるでしょう。

『京洛史蹟歌』（昭和19年2月　大雅堂）

【問い合わせ先】
吉井勇記念館
☎58・2220